

コミュニケーションロボット「Kebbi(ケビー)」を用いた プログラミング教育の授業実践①【大府市立大府小学校】

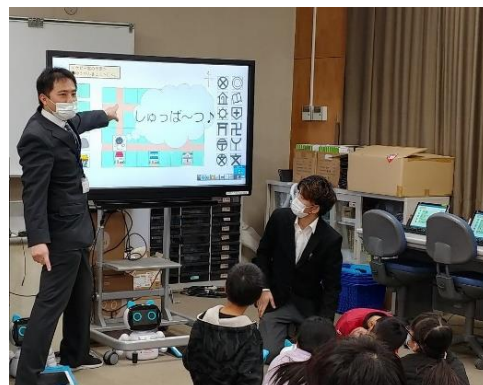
「ICT教育モデル校活動通信 Vol.7」で、コミュニケーションロボット「Kebbi Air」(以下「Kebbi」)を用いたプログラミング教育の授業実践に向けた大府市の取組の様子を伝えましたが、この度、授業実践が行われたので大府小学校の様子を報告する。

3年生(3時間完了)

- (1) Kebbiを接続、動作確認
- (2) プログラミング実験室のミッションカードのプログラムを作成
 - ・ 宇宙旅行士の生活を体験する
- (3) 社会科のプログラムを作成
 - ・ 地図記号のカードを用いて、Kebbiを目的地まで動かすプログラムを作成
(授業を参観して)
 - ・ プログラム作成に必要な言葉などを事前に学習していた。
 - ・ コンピュータ室で1人1台のパソコンや大型ディスプレイを活用し、わかりやすい説明で作業内容を確認していた。
 - ・ グループ学習では、個々が役割をもち、課題に取り組んだ。
 - ・ 主体的に話し合い、協力する姿も見られ、心から授業を楽しんでいる様子が伺えた。



【1人1台パソコンでの取組】



【大型ディスプレイを使った説明】

〈プログラミング実験室とは?〉NUWAがGoogle Blockly(グーグルブロックリー)をベースとして開発したビジュアルプログラミングツール。Kebbiのサーボモーターと各種センサーを制御するブロックを組合せることで、動きやインタラクションを作成することができる。



【グループで課題に挑戦】



【目的地まで移動するKebbi】